

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

基準日 定時株主総会 12月31日
剰余金の配当 期末 12月31日
中間 6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先・照会先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502)
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

公告の方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。
(<https://www.daiichi-seiko.co.jp>)
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.daiichi-seiko.co.jp>

第一精工

検索

最新のトピックスをはじめ、業績報告や会社情報などをわかりやすくご案内してまいります。



株主・投資家情報ページ



全社横断的な営業本部を新設 リソースを重点市場にシフトし 反転攻勢へ

代表取締役社長 小西 英樹



Q 第56期(2018年12月期)の業績について

過去最高の売上高を達成したものの、需要変動と競争激化の影響を受け減益に

まず、電気・電子部品事業では、超小型RF同軸コネクタがスマートフォン市場の成長鈍化や競争激化に加え、IoT分野の需要減少により低迷したほか、細線同軸コネクタはノートパソコンの販売が低調に推移した影響により、思うように伸びませんでした。一方、基板対基板コネクタは、「ダントツ商品」の高周波ノイズ対策フルシールドコネクタがノートパソコンやタブレット向けに採用が進み順調な伸びを示しました。HDD関連部品は、サーバーやゲーム機向けの需要は底堅く推移しましたが全体としてはパソコン向けの減少が影響し低調でした。このほか、「ダントツ商品」のトルクセンサ「エストルク」は、産業用ロボット向けが伸びました。

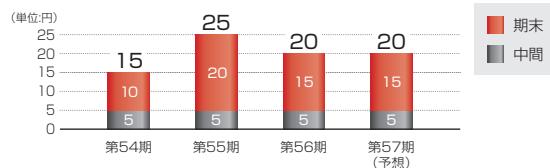
次に、自動車部品事業は、カーエレクトロニクスの進展による部品需要増大の恩恵もあり、燃費、環境、安全性能の向上に寄与する車

載用センサが好調でした。また、耐振、耐熱性に優れたSMTコネクタは、LEDヘッドライト向けに採用車種の拡大が続き大幅に伸びたことから、自動車部品事業の売上レコードを6期連続で更新することができました。

設備事業は、米中貿易摩擦の激化など景気の減速感から半導体メモリの需要は減少に転じましたが、電気自動車や自動運転技術の進展を背景に車載半導体需要が引き続き好調だったため、半導体樹脂封止装置や金型も伸ばすことができました。

以上のように電気・電子部品事業のコネクタの苦戦を好調な自動車部品事業と設備事業がカバーし、売上高526億円と増収を確保しましたが、競争激化の影響から営業利益7億円、経常利益6億円と減益となりました。また、今後の成長を見据え、将来キャッシュを生まない商品及び固定資産の整理に踏み切り減損を実施しましたので、親会社株主に帰属する当期純損失18億円を計上するに至りました。この結果を受け、株主の皆様には大変心苦しいのですが、期末

Q 配当金の推移



業績ハイライト	
売上高	52,674百万円 (前期比 1.4%▲)
営業利益	719百万円 (前期比72.4%▲)
経常利益	660百万円 (前期比73.7%▲)
親会社株主に帰属する当期純損失	1,882百万円

配当金を1株当たり5円減配の15円、中間配当を含む年間配当金を20円とさせていただきます。

Q 第57期(2019年12月期)の重点戦略について

リソースをモビリティ、5G、ロボット、メディカルに重点的に配分

■ 電気・電子部品事業

日本では今年中にも5G(次世代移動通信システム)のサービスが順次開始される予定です。IoTの進展とともにこれまで無線通信機能を持たなかったモノに通信機能の搭載が進み、市場が急速に拡大すると見込まれることから5G関連ビジネスの準備を進めてきましたが、今年は成果が見えてくるものと期待しています。この他、機器内のデータ伝送の高速化が更に進むと予想されることから、高速伝送時のノイズ対策のニーズも拡大が見込まれますので、主にノートパソコンやサーバー向けにフルシールドコネクタの拡販に力を入れます。HDD関連部品は、主にサーバー向けの大容量化ニーズに対応する部品の受注獲得に努めます。また、トルクセンサ「エストルク」は、ロボットメーカーや医療介護サービス分野、産業機械分野への拡販に引き続き注力するとともに、「エストルク」を使ったロボットハンドなど新しいアプリケーションをあらゆる自動化ニーズに向けて展開してまいります。

■ 自動車部品事業

LEDヘッドライト向けに供給している熱と振動に強いSMTコネクタは、順調に採用車種が増えていますが、更なる拡大余地があるため拡販に注力します。また、自動車の電動化、電子化の進展により、今後も次世代車を中心に部品需要が拡大することが予想されますので、リソースを重点的に投入して、電子機器で培ったコネクタのノウハウと、車載用コネクタのノウハウを融合した差別化された新商品の開発と拡販を引き続き強力に推進してまいります。このほか、次世代車向けセンサなどの受注獲得に向けた取り組みを進めます。

■ 設備事業

拡大が見込める車載パワーデバイス向けを中心に、封止装置の拡販に注力します。また、半導体で培った成形技術や装置技術を医療など他の分野に応用する取り組みを継続し、半導体関連以外の分野

に向けた機械装置ビジネスに着手してまいります。

■ MEMSデバイス

一昨年開発を発表した匂いを「見える化」するセンサ「nose@MEMS」は、ユーザーとの実証実験が進んでいます。今年1月に開催されたウェアラブルEXPOでは、凸版印刷株式会社様との共同実証により、市販のブラックコーヒー4種類をおよそ9割の確率で嗅ぎ分ける成果を発表しました。食品、飲料や化粧品の官能検査の置き換え用途の他にも、匂いがトリガーとなるあらゆるシーンでの利用が見込めるので、大きな期待を寄せています。今年秋の発売を目指して開発もラストスパートに入りました。

また、昨年1月に発表したMEMS超音波センサも、商品化に向けてアップデートが進んでいます。このセンサは、駆動機構付センサとして*業界最薄を実現したことが最大の特徴です。機器の小型化が求められるさまざまな用途で使っていただけるセンサになるのではないかと楽しみにしています。

*当社調べ

選択と集中で確かな成長軌道に

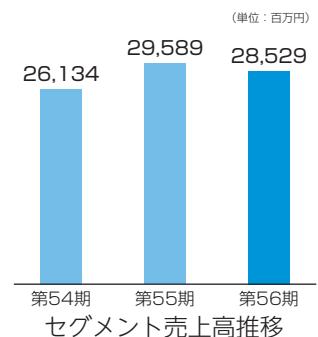
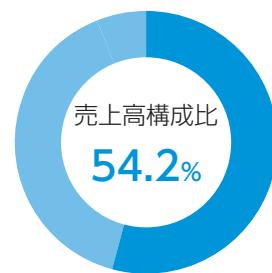
第57期は、拡大が見込まれるモビリティ、5G、ロボット、メディカルに重点を置いた取り組みを展開してまいります。この取り組みを推進するため営業本部を新設し、より効果的かつ横断的な営業戦略を遂行するとともに、生産体制の見直しによる効率化にも注力してまいります。また、各事業における将来の売上の2割以上を稼ぎ出すような未来の看板商品である「ダントツ商品」を生み出し、育てる取り組みも継続し、これらの取り組みが当社を確かな成長軌道へと導くことで、企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様には今後とも当社グループへのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

来期計画		
● 売上高	● 経常利益	● 親会社株主に帰属する当期純利益
551 億円	10 億円	3 億円

電気・電子部品事業

より正確に、より緻密に。
「つなぐ技術」がここにはあります。



コネクタ及び同関連部品



イメージ

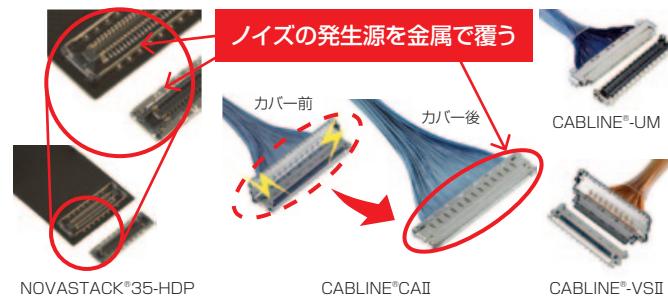
主にノートPC、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末向けにコネクタ(接続部品)を開発・製造し、世界市場に展開しています。最先端技術や規格に適合するコネクタをいち早く開発して市場をリードすることに力を入れており、Thunderbolt™3やUSB3.1Type-Cなどの規格を採用する高性能電子機器に当社のコネクタが多数採用されています。5G(次世代移動通信システム)、IoT、自動車、医療機器やロボット、ドローンなど幅広い市場において高速伝送ソリューションでお客様のニーズにお応えします。

未来のダントツ

高速伝送対応フルシールドコネクタの
ラインアップ拡大



*業界初! 高周波ノイズをシャットアウト



IoTデバイスなどの機器内部における電気信号の高速伝送時の高周波ノイズがWiFiアンテナなどに干渉する“電磁障害”の課題を独自のシールド構造で解決。後付のシールドカバーなどを必要とせずにノイズ対策と高速伝送規格への対応ニーズを両立するソリューションとして採用が進んでいます。

*当社調べ

未来のダントツ

*世界初! 静電容量型トルクセンサ

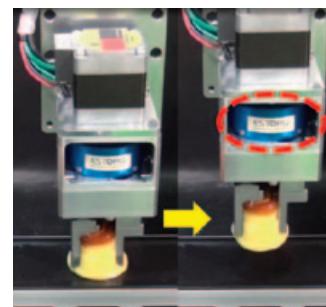


Electrostatic Capacitance Torque Sensor
ESTORQ

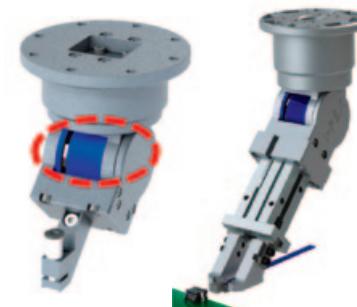
「エストルク」を使ったアプリケーションを開発

ロボットの回転軸のトルク(ねじり力)を制御し、安全柵なしで人と協働して作業できる産業用ロボットに採用された「エストルク」をロボットハンドに応用。2つの繊細な“手”を自動化ニーズに向け販売開始しました。 *当社調べ

プリンがつかめるES-Hand



コネクタを正確に吻合するES-Gripper



HDD用機構部品



データセンターのサーバーやゲーム機などの記憶装置として、大容量化が進むHDD(ハードディスクドライブ)には今後も根強い需要が見込まれています。当社は、お客様との共同開発により世界で初めて量産化した超精密樹脂部品ランプなど、進化が続くHDDに不可欠の機構部品を供給しています。

ランプは、ディスクの回転停止時や、大きな振動が生じた際にディスク面が接触により傷つくことを防ぐため、データを読み書きする磁気ヘッドを待機格納させる部品です。

自動車部品事業

移動を支える先端へ、
信頼の成形システムが
安全へと導きます。

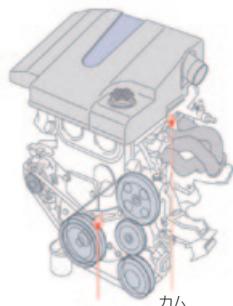


クルマは今や、電子機器の集合体といっても過言ではありません。安全かつ快適な走行のために過酷な条件下でも性能を維持する高感度センサが必需品となっています。また、衝突回避支援システムや自動運転技術の導入に伴い更に電子制御化が進むクルマには他の電子機器同様、コネクタ(接続部品)などの電子部品が多数使用されています。当社は、センサやコネクタをはじめ各種制御ユニットなど、さまざまな車載向けソリューションを供給しています。

各種センサ

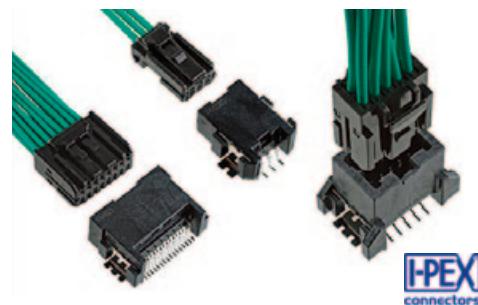
回転
センサ

エンジンのクランクやカムの回転角と速度を検出し、点火タイミングや燃料噴射の制御に利用することでCO₂の排出抑制や燃費向上などに貢献するセンサ。このほか吸気圧センサや車輪速センサなどクルマの制御に欠かせない部品を供給しています。



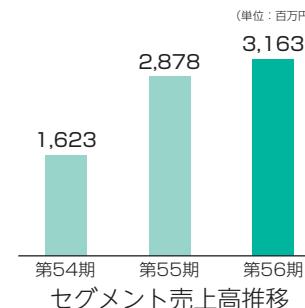
高温125°C対応 熱と振動に強いSMTコネクタ
LEDヘッドライトへの採用が国内外で拡大

本体BOX部に高強度の内蔵パネを組み込むことで、高い接続信頼性を実現。



ISHシリーズ

設備事業



1980年、当社は精密金型技術を活かし、世界で初めて全自動半導体樹脂封止装置を発売しました。以来、国内外のお客様に装置を納入しながら技術の向上を図り、現在では半導体製造関連装置、樹脂成形周辺機器なども供給しています。大判化、薄型高密度などお客様の多用化するニーズにこれまで培った独自のソリューションでお応えし、PC、モバイル、車載、LEDなどの幅広い業界で実績と信頼を積み重ねています。



半導体生産工程

半導体ができるまで



事業
TOPICS



車載向けのコネクタシリーズ拡大

端子が視認しやすく生産性に優れた内部接続用コネクタ。耐振動性も高く主にヘッドライト向けに採用されています。



MEMS匂いセンサ 2019年秋発売予定

市販のブラックコーヒー4種の匂いを約9割の確率で嗅ぎ分けに成功(凸版印刷㈱様との共同実証)。

匂いがトリガーとなるすべてのシーンに広がる可能性。

- ・食品、飲料、化粧品などの香品質管理
- ・不動産や食品容器などへの有害物質残留検知
- ・生鮮食品などの鮮度管理、腐敗検知
- ・ホテル、自動車、不動産などの空間測定 など



マレーシア新工場 稼働開始

当社グループ最大の工場となる新マレーシア工場が2018年10月に完成し、2019年1月から稼働を開始しました。従来のマレーシア工場の約3倍となる建築面積約1万5千㎡の新工場では、車載センサのほか電子機器向けのコネクタも生産し、東南アジアにおける一大生産拠点として、またグループのモデル工場として整備を進めます。



POINT 売上記録を更新も競争激化や販管費増に加え、減損等により最終損失となった。

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	平成30年12月31日現在	平成29年12月31日現在
資産の部		
流動資産	29,402	30,106
固定資産	37,434	34,823
有形固定資産	35,081	32,869
無形固定資産	464	369
投資その他の資産	1,887	1,583
資産合計	66,836	64,929
負債の部		
流動負債	13,905	11,144
固定負債	9,086	6,908
負債合計	22,991	18,052
純資産の部		
株主資本	43,336	45,637
資本金	8,522	8,522
資本剰余金	8,067	8,067
利益剰余金	26,746	29,047
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	439	1,171
非支配株主持分	69	67
純資産合計	43,845	46,877
負債純資産合計	66,836	64,929

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	平成30年1月1日から平成30年12月31日まで	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで
売上高	52,674	51,925
売上原価	38,291	36,343
売上総利益	14,383	15,582
販売費及び一般管理費	13,664	12,978
営業利益	719	2,604
営業外収益	392	498
営業外費用	451	593
経常利益	660	2,509
特別損失	1,907	261
税金等調整前当期純利益(△は損失)	△ 1,247	2,248
法人税等合計	631	587
非支配株主に帰属する当期純利益(△は損失)	3	△ 7
親会社株主に帰属する当期純利益(△は損失)	△ 1,882	1,667

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	平成30年1月1日から平成30年12月31日まで	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,370	6,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,296	△ 10,547
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,090	792
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 198	△ 110
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,033	△ 3,059
現金及び現金同等物の期首残高	7,905	10,964
現金及び現金同等物の期末残高	6,872	7,905

株式の状況

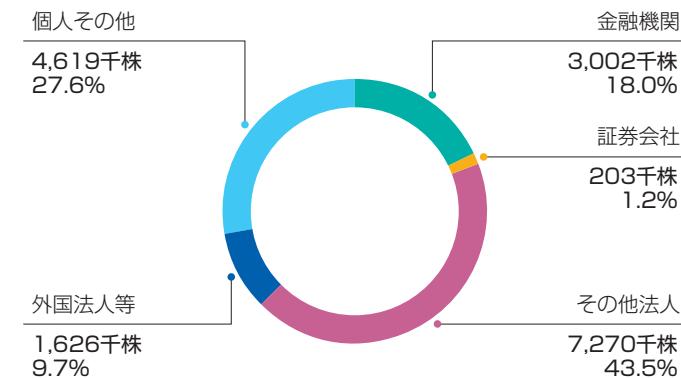
（平成30年12月31日現在）

発行可能株式総数 20,000,000株
 発行済株式の総数 16,722,800株
 株主数 5,216名
 大株主（上位10名）

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ディー・エム・シー	7,200,300	43.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,200,300	7.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	727,400	4.34
第一精工従業員持株会	636,380	3.80
小西英樹	498,800	2.98
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	258,300	1.54
京都中央信用金庫	250,000	1.49
CLEARSTREAM BANKING S.A	242,200	1.44
小西達也	240,000	1.43
GOVERNMENT OF NORWAY	189,400	1.13

所有者別株式分布状況

（平成30年12月31日現在）



会社概要

（平成30年12月31日現在）

商号 第一精工株式会社
 設立 昭和38年7月10日
 本社所在地 〒612-8024 京都市伏見区桃山町根来12番地4
 資本金 85億2,269万円
 従業員数 単体:2,051人 連結:6,076人
 主要取引銀行 京都銀行、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行

役員

（平成31年3月27日現在）

代表取締役社長 小西英樹
 常務取締役 土山隆治
 常務取締役 緒方健治
 常務取締役 原田隆
 常務取締役 田籠康利
 取締役 後藤信明
 取締役 原昭彦
 取締役(監査等委員) 橋口純一*
 取締役(監査等委員) 庭野修次*
 取締役(監査等委員) 中田均*
 *(社外)